



スクールカウンセラーだより

臨床心理士・公認心理師

やぎじゅんこ たかいみか
八木順子・高井美佳

こんにちは。新しい環境にもなれて、少し気がゆるむころ
 でしょうか。みなさんは、「このくらいなら・・・」と、らくがき
 をしたり、ごみをそのまま捨てたりしたことはありませんか。
 今回は「ちいさな悪と人のこころ」について一緒に考えてみ
 たいと思います。

壁に描かれたらくがき、どう思いますか？



少し前に、外国でビルに勝手に入って、らくがきをした日本人が、
 警察に捕まったという事件がありました。このふたりは大人です。
 警察に聞かれて、面白いと思って、エレベーターで屋上に上がり、
 壁などにスプレーやフェルトペンでらくがきをしたと話したそう
 です(お酒を飲んでいたようですが)。みなさんはどう思いますか？

らくがきそのものもよくないことです。しかし、
 それ以上に、ちょっとしたらくがきが恐ろしいこと
 につながるという話があります。

2008年に、オランダのキース・カイザーとい
 う心理学者がおこなった調査によると、

町に『らくがき』があるだけで、その町の『ごみ
 の投げすて』や『盗み』が2倍以上になる
 という結果が報告されています。

また、「郵便ポスト実験」とよばれる実験でも、家
 の郵便ポストの近くの壁に『らくがき』があったり、
 付近にごみが捨てられていたりすると、その郵便
 ポストから郵便物が盗まれる割合が25パーセント
 になったという報告があります。

ポイントは、『らくがき』や『ごみ』ではないよう
 です。『らくがき』や『ごみ』のような、ちいさな
 『乱れ(悪)』が、そのままにされていることで、わ

たたちは不安な気持ち
 になり、こころが傷つけ
 られます。そして、人は
 そのような時には、自分
 を守ろうとして攻撃的に
 なりやすくなるのだそうです。



ほんの小さな悪がつみ重なり、そのままにされて
 いるということが、常識のある多くの人を、非常識
 な人やどろぼうに変身させる力をもっているよう
 です。しかし、『らくがき』を消し、『ごみ』を掃除し、
 小さな悪をなくしたら、窃盗行為はすぐになくな
 ったそうです。

みなさんのクラスに『小さな乱れ(悪)』はありま
 せんか？ いごちの良いクラスをめざす時には、『小
 さな乱れ(悪)』の点検から考えてみるのも良いかも
 しれません。

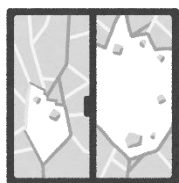
【保護者の皆さま】

こんにちは。今回は、小さな悪を放置しておく、人のところがどう変わるのか？ということに焦点をあてて、考えてみたいと思います。

～悪いことはもっと悪いことを呼ぶ～

世界各国で、壁や公共物への落書きや派手ないたずら書きが後をたたず、大きな社会問題になっています。それらを描いた人たちへのインタビューによると「これは落書きではなく、ペインティングアートで、街を愛する行為である」と、肯定的に話す人が多いそうです。その美意識については、さまざまな考えがあると思いますが、問題となるのは、落書きが集中している都市では、それに比例するように強盗や放火・レイプといった、落書きとは無関係なはずの重大犯罪も増加するという現象が起こっているということだそうです。

～ブローケン・ウィンドウズ現象～



落書きではなくとも、例えば「窓の割れた車」を街に一台放置しておく、その近隣では急激に他の凶悪犯罪も増えるのだそうです。この悪の連鎖

現象を、アメリカの犯罪心理学者ケリング博士は「ブローケン・ウィンドウズ（割れ窓）現象」と呼んでいます。割れた窓ガラス1枚を放置しておく、隣の窓ガラスが割れ、その「放置」によってビルが荒廃し、やがては街全体が荒廃してゆくというものです。

時間のある時に「ブローケン・ウィンドウズ」でググっていただくと、

『職場環境を悪くする「割れ窓理論」、“小さな乱れ”を放置するな！』

『割れ窓理論とは？まちを清掃すると犯罪率が下がる理由』

『フットサルチーム運営と割れ窓理論』

など、さまざまな分野で応用されている事例がヒットすると思います。

また、『より地域に密着した持続可能な防犯活動と、身近な場所で防犯意識を醸成していけるような仕組みの一つとして、平成20年度から商店街やPTAなど地域住民の方やボランティア団体の皆さんと一緒に、まちの落書き消しや張り紙撤去などを行う「割れ窓理論」

実践運動に取り組んでいます。』という京都府のような自治体もあるようです。

～なぜ悪の連鎖を止められないのか～

それでは、いったいなぜ、このような連鎖がおきるのでしょうか。通常であれば、社会集団には強い「自己浄化（カタルシス）作用」があります。集団心理としては、自分の住む街が汚されると、一致団結してそれを撲滅しようと善の方向に働くはずです。しかし、「ブローケン・ウィンドウズ現象」は、割られた窓が放置されている状況により、漫然とした不安感を抱くと、「みんなが見て見ぬふりをしている。いざというときに誰からも守ってもらえないのではないかと不安な気持ちになります。些細なことであっても、それが放置されている状況が続けば、だんだん神経質になり、自己防衛本能や恐怖に反応する交感神経が活発になり、それが高じた時に暴力的になるのではないかと考察されています。

つまり、ポイントとなるのは、落書きや割れ窓そのものではなく、そういった小さな乱れ（悪）が、いつまでも放置されている状況にさらされる不安ということだと考えられます。私たちは、短く強いストレス以上に、弱くとも長く続くストレス（この場合は、社会的放置）に対してとても敏感にできています。非社会的・非道徳的なことがいつまでも放置されているのを目の当たりにし続けることは、誰をも苛立たせ次第にその様子が増加していく、一種の人の脆弱性ともいえるかもしれません。

また、人は他人の行動や体験を観察し、それを反射的に真似ることで学習し行動の変化が起



こります。これは、赤ちゃんの頃から備わっている能力であり、心理学では「モデリング」と呼んでいます。「モデリング」は一定の期間を必要とするものであり、モラルの低下という習慣化した怠惰を長期にわたってモデリングした結果、悪の連鎖が発生するという考え方もできるかもしれません。

些細な悪の放置に傷つけられ、不安を抱かないようにすることは、メンタルヘルスには大切なことかもしれません。よろしければ参考にしてみてください。